

活動レポート

青年技術士交流委員会

平成19年度総会開催！ 体制一新して新たな船出！

■ 青技協から青年技術士交流委員会へ

平成元年10月13日(金)、仏滅、三隣亡に設立された「青年技術士協議会(以下、青技協と略)」が9期18年に及ぶ活動の軌跡を残し、このたび「青年技術士交流委員会」として正式に新たに生まれ変わりました。これは、北海道技術士センターが(株)日本技術士会北海道支部と統合されたための措置であり、青年部組織が正式に社団法人の基に位置づけられ、いわば発展的解消となったものです。

これまでの長いようで短い青技協の歴史を振り返ってみるに、設立当時の諸先輩方の「技術士会」の活性化に対する熱き想いは、組織が変われども、しかと受け継いでいくことが求められていると感じています。

新組織「青年技術士交流委員会」の会員要件や役員体制等については、これまでとほぼ同様の扱いとなりますが、実は会の性格として大きく変化することが2つあります。その1つは、正式な公益法人として性格を帯びるということです。これまでも、「会員の親睦と自己研鑽の場」に限定せず、社会との関わりや社会貢献を意識して活動してきましたが、これからはまさに「公益」として社会的な活動が求められることになります。

もう1つは、本部と直結した組織となったことです。(株)日本技術士会の本部には、常設委員会の中に「青年技術士交流実行委員会」が設置されています。この実行委員会には、全国各支部の代表も委員として参画しており、まさに「交流」の名のとおり全国支部とのネットワークが形成されています。今後は、青年技術士交流委員会においても、全国の活動と連携した活動が求められることになります。

■ 平成19年度 総会報告

1) はじめに

青年技術士交流委員会の新たな門出となった春の総会(平成19年5月21日に、北海道教育文化会館)についてご報告します。

総会・講演会の参加者は54名、懇親会は32名と多くの方の参加を得て行われました。

総会では、開会に際し、今総会にて退任する椿谷会長より冒頭の挨拶がありました。椿谷会長は、任期中、特に記憶に残る出来事として、平成16年度に札幌で開催された全国大会を挙げられ、この大会において当青技協が独自に分科会を開き、全国の青年部との交流を実現した実績を踏まえ、新たな船出となった青年技術士交流委員会のさらなる発展を祈念しておりました。(椿谷会長のご発言要旨については文末に詳細を記載しています。)



写真-1 椿谷会長の開会挨拶

2) 平成18年度活動報告

平成18年度活動報告として、今野幹事長より、第9期の活動の柱として掲げていた「テクニカルスクール」、「北の技術講演会」、「テクノツーリズム」についての報告が行われました。

続いて、危機管理研究会のリーダーである天沼幹事より、危機管理研究会の活動報告が行われ、3年間に及ぶ活動成果を「組織の危機管理を考える」として出版したことが報告されました。

最後に会計担当の山谷幹事より、平成18年度決算報告が行われ、以上の活動報告、決算報告について、会場出席者の過半数の承認が得られました。

3) 規約改正

北海道技術士センターが(株)日本技術士会北海道支部と統合されることに伴い、青技協規約の改正が必要となるため、椿谷会長より改正内容についての説明が行われました。

主な改正として、①従来の「青年技術士協議会」から「青年技術士交流委員会」に組織名称が変更となること、②会員資格が北海道支部の会員、準会員、賛助会員（旧北海道技術士センター会員、ただし委員長は技術士会会員に限る）となること等が説明され、会場出席者の3分の2以上の同意を得て、規約改正が承認されました。

4) 新委員長選出

規約改正の承認後、第10期(青技協からの通算期)の青年技術士交流委員会委員長の選出を行い、丹治和博技術士（建設／総合技術監理部門）が新しい委員長として全会一致で選任されました。

丹治新委員長からの初心声明(文末に詳細を記載)の後、丹治委員長より、第10期の副委員長・幹事長・幹事が任命されました。



写真－2 丹治新委員長の挨拶

新体制は以下のとおりです。

表－1 第10期青年技術士交流委員会体制

委員長	丹治 和博（総監／建設）
副委員長	谷村 昌史（建設／総監）、天沼 宇雄（建設／総監）、松澤 勝（建設）、樋詰 透（建設）
幹事長	奈良 照一（総監／建設）
幹事	服部 唯之（建設）、米川 康（応用理学）、小澤 直正（建設）、林 英雄（農業）、原田 哲郎（上下水道）、井上 涼子（建設）、大槻 政哉（建設）、田中 真也（農業）、岡 宣克（建設）、小山田 応一（情報工学）、西村 一郎（上下水道）、川島 由載（総監／建設）、川村 力（建設）、永井 登茂美（建設）、永田 泰浩（建設）

5) 平成19年度活動計画

新体制が承認された後、奈良新幹事長より平成19年度活動計画についての概要説明が行われました。

平成19年度は、今総会後に引き続き実施される春期研修会を含め、夏期・秋期・冬期の計4回の研修会の開催が予定されています。今期の研修会については、「技術力の向上」をテーマとした「テクニカルスクール」講座と、「北海道の技術」をテーマとした講演会が活動の柱となります。また、第34回技術士全国大会（北陸大会）における青年技術士交流実行委員会による事業、全国支部によるテクノツーリズム事業も予定されていることについて説明がありました。

なお、活動の詳細については、今後、随時、本誌および(株)日本技術士会北海道支部ホームページ、EPO（エンジニア・パーク・オンライン）においてご案内させていただく予定です。

■ 春期研修会

総会終了後に開催された春期研修会では、青技協設立時の初代会長であった(株)開発工営社取締役能登繁幸氏をお招きして、「泥炭地盤との戦い」と題する講演会を開催しました。

能登氏は、北海道開発局開発土木研究所（現・独立行政法人土木研究所寒地土木研究所）時代に長く

泥炭地盤の設計施工法に関する研究に従事されており、本分野に関する著書も出版されている第一人者的存在です。自伝的エッセイ集も出されています。

講演では、泥炭地盤の成り立ちや北海道の泥炭性軟弱地盤が愛知県ほどの広さがあることなど、初めて泥炭という言葉を知る人にも分かる平易な言葉で解説して頂きました。

また、北海道開発にあたり、泥炭性軟弱地盤を克服するために諸先輩の技術者が大変な苦勞をしてきたこと、その陰には多くの失敗が伴っていたことを豊富な写真を示しながらご説明して頂きました。



写真－3 講演される能登氏

また、当日は、青技協発足当時の中心的人物であった(株)西原環境テクノロジー北日本支社長成田周平氏が飛び入りで登壇し、設立当時の話をして頂きました。

設立当時は現在以上に若手が少なく、立ち上げ時には大変な苦勞を伴ったそうです。そのため、創立メンバーにはパワーのある人を集めたということでした。その熱意と勢いが現在の青年技術士交流委員会の礎になっていると感じました。

■ 懇親会

懇親会では出席された平成18年度新合格者の方々に、一人ずつ自己紹介して頂きました。それぞれ受験時代の苦勞話や趣味などを語って頂き、会場は大いに盛り上がりました。



写真－4 設立当時を語る成田氏

■ 新旧会長一言（総会時のコメント）

＜椿谷旧会長＞

青技協としての最後の会長となる椿谷敏雄です。今総会をもちまして、平成15年度から2期4年勤めさせていただいた会長職を退任することとなりました。任期中は、良き幹事に囲まれ大変充実した期間を過ごすことができました。中でも、強く記憶に残るのは、平成16年度に北海道で開催した全国大会です。この全国大会で当青技協が独自で分科会を運営し、全国の青年部との交流を実現し、多くの仲間を得ることが出来たことは、私たちにとっての最大の財産として残っています。

青技協は、今年度から改組され、(株)日本技術士会北海道支部に位置づけられた『青年技術士交流委員会』として生まれ変わりました。45歳以下の技術士の方々におかれましては、是非とも積極的に青年技術士交流委員会にご参加していただければと思います。そして、同士を集め、行動に移すことが、会としてもまた、個々人の技術士としても有意義な活動につながっていくことと思っています。

これからも、丹治新委員長を中心とする第10期青年技術士交流委員会をよろしく願います。今後、青年技術士交流委員会がますます発展し、全国へ、そして社会へ発信していくことを祈念いたしまして、退任の挨拶とさせていただきます。

4年間、ありがとうございました。

＜丹治新委員長＞

第10期青年技術士交流委員会の委員長に就任し

ました丹治和博です。

今年度から「青技協」は、(旧)日本技術士会北海道支部の下部組織に位置づけられ、名称も新たに「青年技術士交流委員会」となりました。

名称に“交流”の一文字が入ったからではありませんが、私個人としては、我々青年技術士の世界も「新たなる交流の時代」への対応が求められているように感じています。先輩技術士との交流や技術士を目指す人、修習技術士との交流だけではなく、北海道と全国、都市圏と地方と、さらには技術士の枠に限定することなく、地域社会とどれだけの多くの接点を持つことができるのかがとても重要であると感じています。

最近、技術士の社会的地位等についての話題を良く耳にしますが、我々技術士の社会的地位とは、こうした“交流”活動の積み重ねの結果に過ぎないのではないのでしょうか。

第9期青技協は、椿谷会長のもと、こうした“交流”活動に向け、大きな第一歩を残したものと思います。第10期青年技術士交流委員会としても、この理念を引き継ぎ、積極的に“交流”を基調とした活動をしていきたいと考えています。

道内の技術士の皆様におかれましては、青年技術士交流委員会の活動に際して、これからもご指導やご協力を頂きたいと思ひます。また、青年技術士の皆様には、積極的に青年技術士交流委員会に参加いただきたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、今総会において退任される椿谷会長をはじめとする第9期青技協幹事の皆様、長い間、大変お疲れ様でした。

■おわりに

今年から「青技協」は、「青年技術士交流委員会」として新たなるスタートを切りました。

名称こそ「青年技術士交流委員会」と変わりました

たが、その活動内容や方向性が大きく変わるものではありません。具体的な活動計画については、今後、新役員・幹事の中で議論していくことになりますが、青年技術士間の交流やスキルアップにとどまることなく、地域社会との接点も持ち続けることができるよう努力していきたいと考えています。

青年技術士交流委員会の活動は、若さ(?)ゆえに試行錯誤を続けることになりますが、今後とも技術士の皆さんの温かいご支援をお願いいたします。また、青年技術士の皆様におかれましては、積極的に青年技術士交流委員会の活動に参加していただけるようお願いいたします。

(文責：青年技術士交流委員会幹事 岡 宣克)

EPO (エンジニア・パーク・オンライン)

青年技術士交流委員会(旧青技協)では、日本技術士会北海道支部の会員、準会員、賛助会員の方全てを対象として、メーリングリスト EPO を1998年(平成10年)から開設しています。

登録を希望される方は、①氏名、②所属、③日本技術士会北海道支部の会員・準会員・賛助会員の該当、④そのほか(自己紹介や抱負等)をお書きの上、メーリングリスト登録希望の旨を記入して、以下のメールアドレスまでeメールをお送り下さい。

なお、メーリングリストとは、メールを登録会員全員に同報配信する仕組みで、EPOは「特定のことがらに詳しい人を探したり」、「講習会や行事等の案内」、「会員相互の様々な情報交換」などに活用されています。平成19年5月末現在で約560名の方が加入されています。

(EPO 登録申し込みアドレス)

seigikyo@ipej-hokkaido.jp